

プレスリリース【東進ハイスクール・東進衛星予備校】

山中教授のノーベル賞受賞に貢献した**高橋和利先生**が永瀬賞 最優秀賞を授与！！

特別賞に輝いた**長谷川祐司先生**とともに、日本の未来を担う高校生へ特別講義を実施

第3回「永瀬賞」授賞式&サイエンスセミナー
イベントレポート

大学受験予備校東進ハイスクール・東進衛星予備校を運営する株式会社ナガセ(本社:東京都武蔵野市)が支援を行う一般財団法人フロンティアサロン財団は、各分野で最先端の研究を行う若手研究者へ贈る「永瀬賞」の2013年度(第3回)の受賞者を選出し、去る9月27日(金)に帝国ホテルにて授賞式を開催いたしましたのでお知らせいたします。本年度の受賞者には、山中伸弥教授(京都大学)のノーベル生理学・医学賞受賞にも貢献したとされる高橋和利先生(京都大学 iPS 細胞研究所 講師)が最優秀賞に、長谷川祐司先生(ウィーン工科大学 准教授)が特別賞に決定し、フロンティアサロン財団代表理事の宮田清蔵先生(元東京農工大学長)より、授与が行われました。また、この「永瀬賞」受賞を記念して、受賞者自らが行う高校生のための特別講義「サイエンスセミナー」が、同日、帝国ホテル孔雀の間で開催されました。受賞のきっかけとなった研究成果や研究がもたらす社会への影響などを中心に講演いただくと同時に、日本の将来を担う約1,000名の高校生たちに向けてエールが贈られました。

【高橋 和利先生】

●講義テーマ:『細胞の運命転換技術とその応用』

山中伸弥教授によるノーベル生理学・医学賞で注目されたiPS細胞発見の研究は、高橋先生の発想アイデアがきっかけになったと言われています。このiPS細胞発見に至るまでの生命科学の歩みと今後の展望について講演いただきました。

●高校生へのメッセージ

最先端の研究者というのは、神様とのクイズ合戦をやっているようなもので、負けるのが当たり前。しかし、そんな勝負であっても頑張って挑み続ければいつかは勝てることあるんです。皆さんも決して諦めないという気持ちで頑張ってください。



【長谷川 祐司先生】

●講義テーマ:『不思議なナノの世界～不確定性原理の破れを観測～』

現代の携帯電話やコンピューターを始めとする、エレクトロニクス産業の基盤となる量子力学の基本的な世界観を構築する新たな柱となった実験についてお話いただきました。

●高校生へのメッセージ

成功するためには3つの条件があります。それは①才能、②運、そして③意志。しかし、才能と運があっても、意志がなければ超えられません。意志の方がはるかに重要です。皆さんも確固たる意志を持ってやるべきことに取り組んでいけば、必ず道は拓けてくるでしょう。



<本件に関するお問い合わせ先>(報道機関用)

株式会社ナガセ 広報部:市村、加藤 電話 0422-44-9001 FAX0422-44-9129
〒180-0003 東京都武蔵野市吉祥寺南町1-29-2
ホームページ www.toshin.com E-mail pub@toshin.com

《受賞者情報》

◆永瀬賞 最優秀賞

高橋 和利 (たかはし かずとし) / 京都大学 iPS 細胞研究所 講師

【受賞理由】

京都大学の山中伸弥教授のノーベル賞受賞に至る実験を、山中教授のアイデアの枠組みの中で忠実に実行し実現させたことが評価されました。

今回のフロンティアサロンの講演で特に評価すべきは、iPS 細胞発見の先、どのようにこれが応用されるのか、また探究の方向について、高橋先生独自の観点から切り拓こうとする試みが見られた点です。具体的には、細胞の初期化技術を利用した老化研究が挙げられます。iPS細胞の技術を用い、一個体が老化によってどのように細胞レベルで変化していくのか、またそもそも老化の原因は何なのかということを明らかにする試みが評価されています。サイエンスの社会貢献、将来の貢献という観点から非常に重要な研究であると評価できます。

【プロフィール】

1977年12月1日生まれ。京都大学 iPS 細胞研究所 CiRA(サイラ)初期化機構研究部門 主任研究者。

同志社大学工学部を卒業後、山中伸弥博士が奈良先端科学技術大学院大学に助教授として赴任し、1999年に初めて研究室をもった翌年、学生が誰もいなかった山中研究室に一番初めの大学院生として入った。京都大学に赴任した山中伸弥博士にともない、博士号取得後、研究室ごと再生医科学研究所に移籍。京都大学で特任助教として勤務。2008年から京都大学助教、2009年から京都大学講師を務める。

(主な受賞歴)

2002年 NAIST 最優秀学生賞 / 2005年 NAIST 最優秀学生賞 / 2007年 日経BP賞 医療・バイオ部門賞 / 2009年 湯川・朝永奨励賞

◆永瀬賞 特別賞

長谷川 祐司 (はせがわ ゆうじ) / ウィーン工科大学 准教授

【受賞理由】

1927年の発見以来、多くの研究者に広く信じられていたハイゼンベルクが提唱した「不確定性原理」。高校の物理の教科書にも掲載され、誰もが信じて疑わなかったこの原理を破る測定を実験にて実証したことが評価されました。

また、その後のナノサイエンスにおける精密測定技術や量子情報技術によるネットセキュリティ向上や、高速計算といった次世代応用技術への道を切り拓いたことも評価点として挙げられます。

【プロフィール】

東京都世田谷区生まれ。桐蔭学園高校卒。1988年東京大学工学部卒、93年東京大学大学院工学系研究科物理工学専攻博士課程修了。オーストリア大学原子核研究所助手、東京大学工学系研究科助手などを経て、2010年から現職。研究分野は量子物理学、量子光学、X線光学、中性子線光学。

「永瀬賞」とは

2011年創設。世界を牽引する日本の若き研究者に贈る賞。

年1回、日本の科学技術の振興、そして人類の未来への貢献につながる新しい挑戦という観点から、優れた研究を行った若手研究者に贈られます。若手研究者の講演を学生に向けて実施している「フロンティアサロン」にて講演した研究者が対象。受賞者には、賞状と賞金1,000万円が贈呈されます(今回の特別賞には500万円が贈呈されました)。第1回(2011年)は上田泰己先生(理化学研究所チームリーダー)、第2回(2012年)は水落憲和先生(大阪大学准教授)がそれぞれ最優秀賞を受賞しました。

また、株式会社ナガセでは、「東進ハイスクール」「東進衛星予備校」に通う東進生を対象に、永瀬賞受賞の研究者から直接講義を受けられる特別講義「サイエンスセミナー」を開催しています。このセミナーでは、最先端の学問にふれることで、受講した高校生たちにとって大きな夢や目標を持つきっかけとなり、また勉強に対するモチベーションを高めます。

《一般財団法人フロンティアサロンについて》

世界を牽引する「日本の若き頭脳」を応援する科学研究者の集い。
代表理事は宮田清蔵東工大特任教授(元東京農工大学長)。若手研究者に研究内容を発表する機会を提供しています。
世界で活躍する日本の科学者たちを応援し、国が変わるような大きな産業や雇用を生み出す研究をバックアップしたい。
そのような想いを込めて、東進ハイスクール・東進衛星予備校を運営する株式会社ナガセが支援を行っています。

《株式会社ナガセについて》

1976年創立。大学受験向け予備校の東進ハイスクール(首都圏を中心に92の直営校)や、全国47都道府県に約850校舎を配す東進衛星予備校(フランチャイズ契約)を展開。質の高い授業と革新的な学習システムによって、東大現役合格600名(東大現役合格者の30.3%が東進生)など高い合格実績を実現し、現在では約12万人の現役高校生が通う、日本最大規模の予備校です。グループには、中学受験の四谷大塚、イトマンスイミングスクールを配するほか、大学生・社会人を対象に東進ビジネススクールを開講。

また、2010年10月より「セサミストリート」の教材を使用した幼児・児童向け英語教室「東進こども英語塾」を開校。「独立自尊の社会・世界に貢献する人財を育てる」を教育目標とした幼小中高大一貫教育サービスを展開しています。